

丹田に、下に、エネルギーを溜めていく  
イントロ

(↓横のエネルギーを練り上げていく)

らっしゃいな 平は成り  
時が来た 正しい夢現(ゆめうつつ) 夜もすながら  
変わりゆくことに恐れなし  
のっぴきならないのは御免  
手毬唄歌い 君達が誘う  
悪人(やなんちゅ)に後ろ髪を惹かれても  
進むべきなり

(↓大きい正面にある太鼓を叩く)

流行り廃りの憂き世なら  
信ずる者はただ、君だけと

(↓JUMP 下から煽るイメージ)

踊れ騒げや 呑めや歌えや  
案ずることなどないな  
此の世人の世は恨めしい  
雪駄はちゃらちゃら 愛(かな)し  
縋って眩んで満身創痍で  
それぞれそれぞれ  
今を嘆いて昔を粧しても  
君の心の内 流る涙川  
それじゃ敵わん 何処にいても  
めくるめく舞台に君を連れて

(↓龍に乗っている)

あまりてなどか人ぞ悲しき  
身勝手なのが世の理か  
万人持つ理想 虚像の偶像(アイドル)  
俗な答えなどはあらざらむ  
僕ら巡りあうこと まさに一期一会  
酸いも甘いも試練 連れ添ってこの手握って

(↓大きい正面にある太鼓を叩く)

生きづらい此処、浮き世から  
旗を掲げよ 宵闇が明く

(↓JUMP 下から煽るイメージ)

酔いどれアガれや 寝れば忘るる  
昔も今も変わらず  
浮世人の世嘆かわしい  
いつだってちゃんちゃら をかし  
荒んで笑って合縁奇縁で  
それぞれそれぞれ  
深まる春も凍てつく雪の日も  
日出ずるすべての瞬きを君と見よう  
彩る色 何処までも  
空前なる見晴らしを眺めて

(↓盆踊り 踊り狂え～!)

負けて花一匁 欲しがる欲しがる欲しがる声  
勝って恨んで買って選んで 呆気ないって泣いて  
猿真似の何番煎じじゃ満ち足りないない

未だ進む道半ば哉  
如何なる時も歩を前へ出せ

(↓大きい正面にある太鼓を叩く)

流行り廃りの憂き世なら  
信ずる者はただ、君だけと

(↓JUMP 下から煽るイメージ)

踊れ騒げや 呑めや歌えや  
案ずることなどないな  
此の世人の世は恨めしい  
雪駄はちゃらちゃら 愛(かな)し  
縋って眩んで満身創痍で  
それぞれそれぞれ  
今を嘆いて昔を粧しても  
君の心の内 流る涙川  
それじゃ敵わん 何処にいても  
めくるめく舞台は宵々、君を連れて

(↓龍をおこしていく)

間奏

あまりてなどか人ぞ恋しき  
身勝手なのが世の理か  
移ろうは古今 航路なら堂々  
恐るることなどはあらざらむ